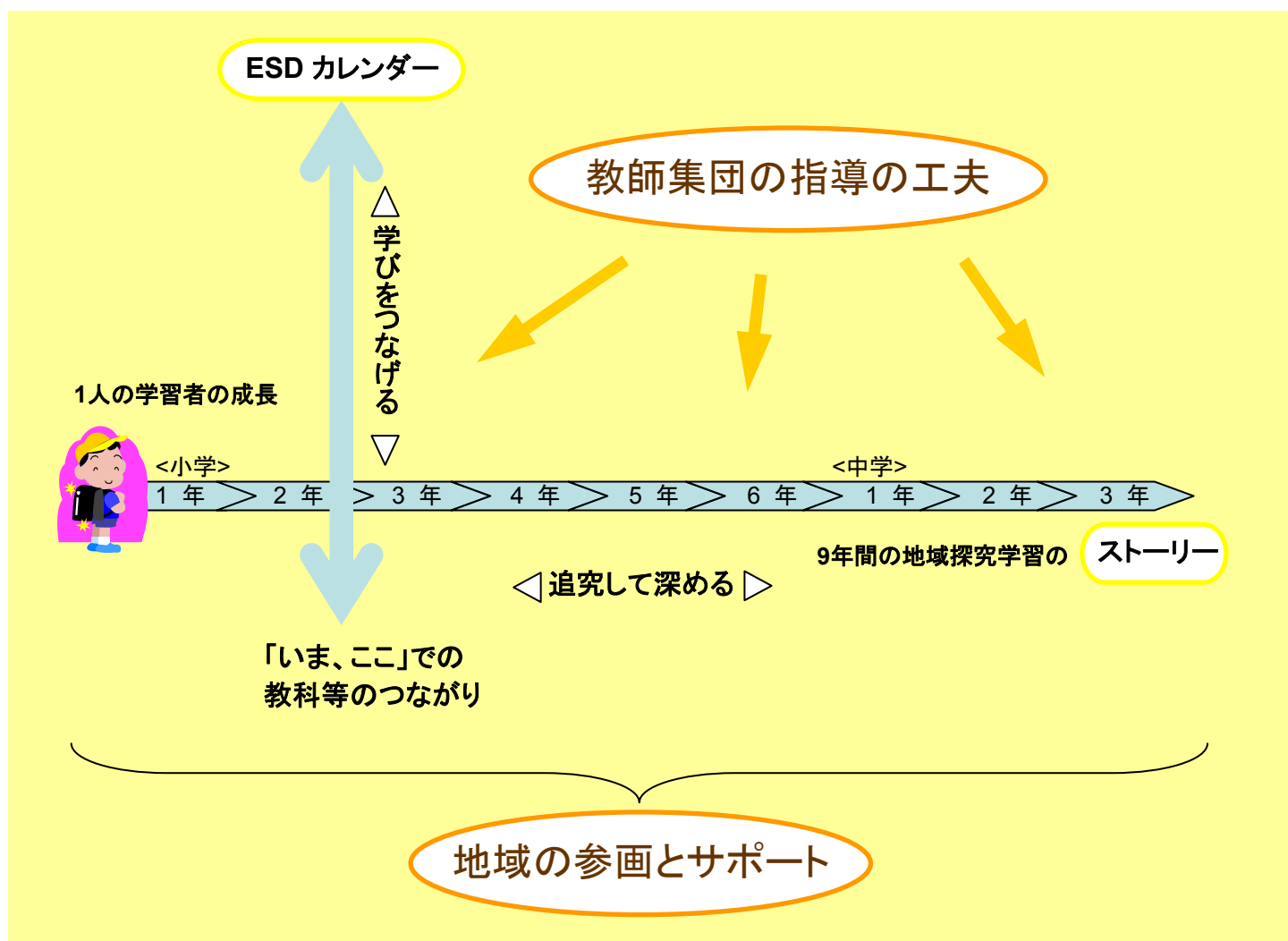


学校と地域がつくる 「希望への学びあい」 3

地域とともにつくる9年間の地域探究学習で
地域と地球の未来を描く



「希望への学びあい」 これまでの歩み

多摩市ESD研修会の3年間

H21年度 日本/ユネスコパートナーシップ事業] (受託: ESD-J)
'09年11月～'10年2月の5回のESD研修会でつくられた既存の授業の改善プラン

小学校 「食」の学びは、
「いのち」のつながりを学ぶこと

中学校 「しごと」の学びは、
「社会」そのものを学ぶこと

'09 授業プラン:
「なぜ食べ物を大切にしなければならないか」
(領域: 農業体験・食育、学年: 小学3～4年)

授業プラン:
「ESD的職場体験」
(領域: 職場体験、学年: 中学1～2年)

[H22年度 日本/ユネスコパートナーシップ事業] (受託: ESD-J)

'10年5月～'11年2月の10回のESD研修会で上のプランを実践

小学校 (連光寺小学校)

中学校

'10

1,2 年生	自然と関わる	「野菜を栽培する」 「地域の農家と関わる」
3 年生	人と関わる	「商店街で仕事を体験する」「地域のお年寄りから連光寺の昔話を聞く」
4 年生	自然を学ぶ	「多摩川での自然観察活動を通して、広い意味での生態系を考える」
5 年生	自然と人の共生を考える	「専門家に研究方法を学び、関心のあるテーマを追求する」「近隣で稲作体験をする」
6 年生	社会の一員として人と関わる	「地域の歴史や文化を調べ、達人に学ぶ」「世界の文化を知る」「福祉活動を体験する」

人と
人の
つながり

従業員と顧客との関係は
どのようなものなのか？

人と
自然の
つながり

会社は自然環境の保全に
どう貢献しているのか？

人と
社会の
つながり

会社は社会貢献や国際貢献を
どのように実践しているのか？

(小) 2グループ、(中) 1グループにわかれ、3つの授業案をつくり、

2回研究授業を実施

'11

(小) 伝統グループ
炭やき体験からエネルギーを考える
●燃料(エネルギー)の移りかわり
●それぞれの長所・短所は？
●これからどうしたらいいか考えよう

(小) 自然グループ
野鳥観察から地域を考える
●野鳥のくらし(生態)を考えよう
●野鳥と地域の環境とのかかわりを考えよう

(中) グリーンカーテングループ
ゴーヤでつながる授業づくり
●多面的に考える(育て方、味覚、体と健康、デザイン、種の数)
●学校、教科をこえた教員間の協力

稲城市ESD研修会の半年間

[H23年度 日本/ユネスコパートナーシップ事業] (受託: ECOM) '11年9月～'12年2月

回	日時	内容
第1回	9月29日(木)	ESDの概説、今後の展望
第2回	11月29日(金)	地域団体との授業計画検討
第3回	12月01日(木)	指導計画作成1
第4回	12月26日(月)	指導計画作成2
第5回	1月17日(火)	指導計画作成3
第6回	2月16日(木)	各校の24年度授業計画発表・検討

既存の授業をESD化する視点・工夫

① (小)6年間 } のつながりを重視する
(中)3年間 }

② 学区→稲城全体→流域→長野・野沢との比較
→学区という視野の広がりを工夫する

③ 地域のパートナー、協力者(団体)をリストアップする

“2030年の大人づくり”

○公開授業による研究・実践交流
●ESD推進三多摩ネットワークの推進

グローバル⇄ローカルな地域の新しいアイデンティティを求めて 地域を探究する

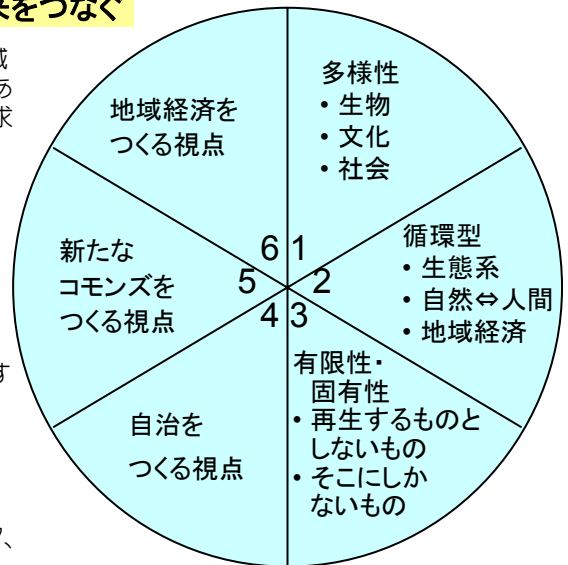
なぜ地域探究学習か

伝統的なものと現代的なもの、旧住民と新住民が同居しているのがいまの地域です。両方のよさを活かし、新たな地域の存在意義や価値をつくっていく必要があります。そのためには、過去から学び、現在を点検し、未来を描く地域探究学習が求められているのです。

そのときに、右のような6つの視点で地域への学びを掘り下げていくとよい。

- ① 多様性… 生物の進化から人類社会の文化的発展に至るまで多様性はその基盤を支え豊かにしています。
- ② 循環性… 物質循環により生命活動が成り立っています。身近な資源を循環させることにより地域経済が持続します。
- ③ 有限性・固有性… 再生しない資源・エネルギーは再生する資源・エネルギーに代えれば社会は持続します。そこにしかないものを活かすことにより地域が活かされます。
- ④ 自治… 自分たちで考え、決め、運営することが大事です。
- ⑤ 新たなコモンズ… 共有物を皆で維持・管理・利用すれば環境もこわさずに生活できます。
- ⑥ 地域経済… これからは資源を使わず、人を使う時代です。環境、福祉、ケア、手づくりが仕事となっていきます。

● 過去－現在－未来をつなぐ

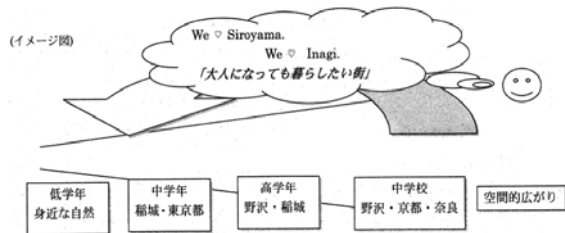


地域探究学習で大切な6つの視点

視点と方法

(稲城市ESD研修会より)

● 空間的広がり (城山小24年度ESD基本計画(案)より)



小中9年間を通した学習の空間的広がりにより、地域を見る目、比較検討する目を養っていく。そのことにより、自らの学区の地域を深掘りする視点と他の地域・世界も含めてグローバルに考察する視点を持てるようになる。

<空間的な広がり>の視点を教師・地域が獲得することで、生活科－総合－特活(高学年の長野県・野沢での林間学校、中学校での修学旅行)がつながる。

評価法

(稲城二小24年度ESD基本計画(案)より)

● ポートフォリオ評価

ポートフォリオ評価により、学習活動や体験活動で使ったワークシートや作品、自己評価カードなどを累積し、児童の学習への取り組み状況や学習の成果を把握する。

特に、稲作活動に関するものは、6年間を通して行うので、稲作ファイルに保存し次学年へ持ち上がるよう指導する。

● 地域の人たちによる評価

学習の活動前や活動途中で他学年に稲作活動の様々な技術を伝えあう時間を設定する。また、学習の途中経過やまとめに保護者や地域の方を招いて発表する会を設定する。

その際の、児童の発表内容や発表意欲・態度等を観察し評価する。

学習の成果は、学習発表会などの行事の中で劇化したり発表したりして、広く地域の方々に伝える機会を設定する。その際の児童の発表内容や発表意欲・態度等を観察し評価する。

⇒ 教員による評価のみならず、地域の人たちに評価・提案・アドバイスをしてもらえば、児童や教員の励みになり、意欲が高まる。

● プロジェクト学習

(稲城二小24年度ESD基本計画(案)より)

(例)「坂浜里山プロジェクト」～人・自然・地域に学ぶ体験学習～

1. 趣旨…自然と人が共存してきた里山の価値を掘り起こすと共に、里山の価値を再認識し、さらに、児童が未来型坂浜里山活性化のプロジェクトを多角的な視点で展開していくことを目指している。ユネスコスクールに加盟することにより、国内外の学校との交流を通して客観的な視点で里山の価値を再認識し、理解を深めさせていきたい。
2. ねらい…特に、お米プロジェクトの目的
 - ① 自然に対する感受をはぐくむ
 - ② 稲作の技術・文化を継承する
 - ③ 稲作と生き物のつながりを知る・生物多様性の価値発見
 - ④ 稲作とつながる祭りや伝統行事の発見・継承
 - ⑤ 郷土文化の発見・継承
 - ⑥ 稲作から気づく里山文化の価値
 - ⑦ お米の多様性(種類・調査・レポート・他地域との比較)
 - ⑧ お米を使った食文化の発見・継承(種類・調査・レポート・他地域との比較)
 - ⑨ お米に関連した地域遺産・文化遺産の発掘
 - ⑩ 情報収集力・論理的思考力・発信力の養成

学びあいの評価法 (HOPE評価)

HOPE評価とは、2008年、ユネスコ・アジア文化センター(以下、ACCUと略す)が開発・実践した評価方法で、当初、「ホリスティック(Holistic)で、参加を促し(Participatory)、勇気づける(Empowering)手法」として提案・実践されました。

すなわち、「共に考え、共に働く過程での困難や工夫、そして達成した成果を、『評価者－被評価者』の垣根を超え、学び合い、次に活かしていく」、「評価チームの存在を通して、現地の人々が『鏡』を見るように主体的に自らの活動を振り返るきっかけに」し、「プロジェクトの対象者、現地コーディネーター、関係者、そして評価チームの人々にとって学びの機会」とした評価です。

(詳細は、東京学芸大・成田喜一郎さんのブログをご覧ください)

ひろがるESD①

ESDを推進する

三多摩ネットワークへ

○ 伝統と現代を融合させ“環境未来都市”へ

● '13年「ユネスコスクール全国大会」、'14年「世界大会」に向けて

三多摩地域では、年々ESDに取り組む学校、教育委員会、市民団体、地域が増えてきています。1ページに紹介した多摩市、稲城市のほかに、町田市や三鷹市、八王子市等にも広がっています。

また、玉川大学(町田市)は'09年より毎年「ESD地域推進フォーラム」を実施し、近隣の横浜・川崎などの神奈川地域、多摩・稲城などの三多摩地域の学校、自治体等への支援を行ってきました。

そこで、多摩市・稲城市教育委員会と玉川大学、ECOMはESD-Jとの連携のもとに、「ESD推進三多摩連絡会」(略称:ESD三多摩ネット)を結成し、広く三多摩地域の学校、大学、専門機関、自治体、教育委員会、NPO、企業等に参画を呼びかけていくことを確認し、推進しはじめたところです。

'13年には東京でユネスコスクール全国大会、'14年には岡山で世界大会が開催されることになっています。ESD三多摩ネットは、これらを協力して成功させることを担っていきます。ユネスコスクールの拡大と質的向上を目指して牽引していきたいと思います。

三多摩地域でのESDの課題としては、2つの軸が考えられます。①源流から中流部までの多摩川流域での生命地域の回復、②里山での循環的ななりわい(生業)や暮らし、どんと焼きや糺の神などの伝統文化などの伝統的なものと多摩ニュータウンに代表される現代的なまちや生活のあり方とを融合させた“環境未来都市”の創造(特に高齢社会への対応)。

この冊子で提起している地域探究学習はそのために行われる必要があります。

町田

小山田小学校の里山環境を活かしたESD

町田市立小山田小学校では、まわりの里山環境や里山の暮らしを保っている住民を存分に活かした環境教育活動を長年にわたって蓄積してきました。小山田地域は横浜市を流れる鶴見川の源流でもあり、鶴見川の調査・研究も盛んです。地域の小山田会の協力により炭がまをつくり、増えて困る竹を伐って竹炭を焼いて販売したり、農協・農家の協力でわらでぞうりを編んだり里山文化の継承につとめています。

地域の課題

- 自然林の保全
(竹林による自然林の破壊)
- 鶴見川・源流域の保全と浄化
- 地域とのふれ合い(小山田は心の故郷)
地域の伝統行事に参加
(地域のお祭り等)



高学年の取り組み

- 小山田小学校株式会社をつくろう
(竹炭・竹酢液の製造・販売)
 - ※ 鶴見川の研究・調査
(理科の時間に調べよう)
 - ※ 里山と周りの自然林を保全しよう
 - ※ 中庭を芝生にしよう(温暖化対策)
(中庭改造ビフォーアフター計画)
 - ※ 外国の環境を知ろう
(タイ国サムソップ小学校とフレンドシップ協定)
 - ※ 環境について意見を交わそう

三鷹

三鷹市立第七中学校区小・中一貫教育
おおさわ学園のESD

三鷹市は、「コミュニティスクールを基盤とした小・中一貫教育」を7中学校区において展開し大きな成果をあげています(参考文献:貝ノ瀬滋『小・中一貫コミュニティスクールのつくり方』)。

その一つであるおおさわ学園では、右図のような地域を活かしたプログラムを地域の全面的な協力のもとに展開しています。

また、'09年3月よりICU(国際キリスト教大学)とケープタウン大学の協力で南アフリカの小学校との交流を続けています(参考論文:ICU・北原和夫「日本と南アフリカの小中学校連携を軸とするESDモデルの構築・実践の試み」)。これは、「土」と「川」をテーマにして教育モジュールを共同で開発しようという意欲的な試みです。

八王子

ニュータウン地区10校のコーディネーター連絡協議会が
「やってみたいこと」ワークショップ

'12年2月29日、本事業の一環としての「ユネスコスクールセミナー」として位置づけられた同協議会のワークショップが開かれました。

ニュータウン地区10校のコーディネーターや教員ら19名が参加し、「学校と地域が連携してやってみたいこと」をテーマに話しあい、以下のようなやりたいことが出されました。これからの展開が楽しみです。

①未来の防災のリーダーを育てる

- ・「防災」をキーワードに子ども、学校、地域をつないでいく⇒カリキュラムに位置づける
- ・「マニュアル」「シミュレーション」ではなく役に立つことを!
- ・「合同防災訓練」を大人主導から中学生主導へ
- ・「備蓄」もチェックして必要なもの(例えば「火」)を考えたり食べられる植物を学習したり、栽培したりする

地域学習の図



②子どもも大人もコミュニケーション力up

- ・子どももつながりがなく、親もコミュニケーションがとれてない
- ・学校に来る親を増やす(草むしり、そうじ、など)
- ・卒業した人を呼ぶ
- ・「1人1役」をつくる

③自然体験、地域の知恵、歴史を学ぶ

- ・公園、学校林の有効活用
- ・ずっと住んでいる住民の知恵をもっと子どもたちに伝える(食べられる山菜、昔のまわりの歴史、炭やきなど)
- ・子どもたちで考え実行させよう!

ひろがるESD② 東京23区へ

東京のESDは、多摩地域だけではなく23区内にもひろがってきています。八名川小をはじめとする江東区の取り組み、そして本事業にご協力いただいた文京区、板橋区、北区などでの取り組みがあります。ここでは、地域コーディネイターをうまく活用している北区のサブファミリー（幼、小、中連携）のしくみと浮間サブファミリーでのESDの取り組みを紹介します。

北区の「学校ファミリー」制度

いま全国で、コミュニティスクールや（幼）小中連携の試みが行われています。北区では、右図のような「サブファミリー」を各中学校区ごとに作り、教育コーディネーターの支援のもとに幼小中連携を進めようとしています。

北区では、地域の子どもは地域で育てるといった視点から区域内の学校への就学を基本としています。理由があってそれを変更したい場合に対応するために、北区全体を「学校ファミリー」とし、中学校1校を中心にその通学区域内の小学校と幼稚園で「サブファミリー」を構成しています。

浮間中サブファミリーのESD

「うきま里山」構想

「うきま里山」構想とは、人が手を入れながら自然と共存共生していく場「里山」にちなみ、校地内の環境を生かし、築山・池に加えてさらに棚田や小川を造成し、「うきま里山」を実現していく構想です。

構想実現に当たっては、以下のことを確認しながら進めてきました。

- ① 「児童中心の活動」を基本に、児童の自尊感情を高め、学校を自慢に思う気持ちを育てる。
- ② 専門家の指導を仰ぎ、保護者、地域、全職員の協働の場とする。
- ③ 自然環境整備・保全活動が継続していくよう、各ボランティアの力を得ながら組織的に取り組む。

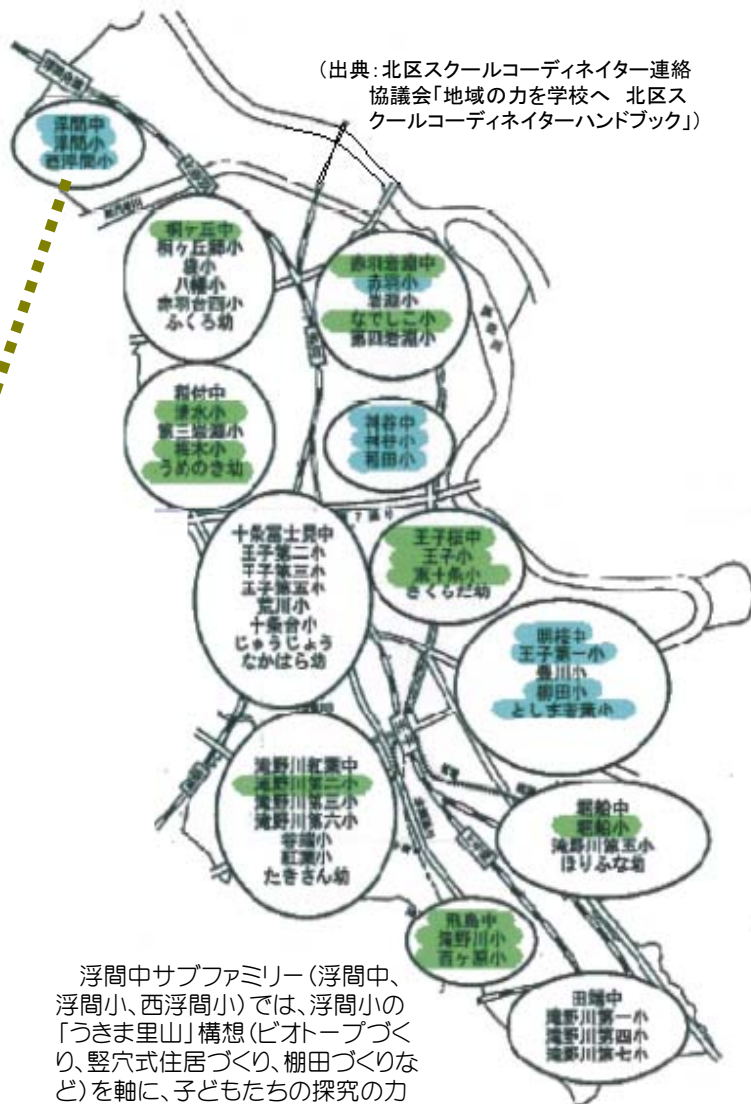
児童は、「うきま里山」で遊び学ぶ日常の中で、様々な感性を育み、命に触れ、思いを巡らせています。また、「うきま里山」は、児童の課題追究や探究の貴重な場となっています。

（出典：平成23年度 浮間小学校リーフレットより）

「うきま里山」構想を支える自然環境管理委員会

学校（各学年1名）・スクールコーディネーター				
専門家（北区環境リーダー）				
● グリーンキーパー ・花壇の見守りと指導	● 棚田ボランティア ・棚田の見守りと指導	● うきうき池ボランティア ・うきうき池の見守りと指導	● 桜草ボランティア ・桜草園の見守りと指導	● 畑ボランティア ・畑の見守りと指導
PTA（保護者）・おやじの会				

◇北区学校支援地域本部事業の一環として活動。



（出典：北区スクールコーディネーター連絡協議会「地域の力を学校へ 北区スクールコーディネーターハンドブック」）

浮間中サブファミリー（浮間中、浮間小、西浮間小）では、浮間小の「うきま里山」構想（ビオトープづくり、竪穴式住居づくり、棚田づくりなど）を軸に、子どもたちの探究の力を育てるESDを展開しています。

平成23年度「うきま里山」での活動

〈生活科〉〈総合的な学習の時間〉

人とのかわり		収穫	環境
(兄弟班、保育園児、北区環境リーダー、環境ボランティア、保護者、他)			
1年	うき山はわたしたちの遊び場 * フィールドビンゴ * 梅ジュースづくり	サツマイモ	うき山
2年	花や野菜を育てよう * フィールドビンゴ * あんずジャムづくり	夏野菜	桜草庭園
3年	うきうき池となかよし * いきもの、虫たち * 夏みかんの観察	夏みかん	うきうき池
4年	うき山ガイドブック・わたしの木 * うきうき棚田で稲作	稲	うき山
5年	桜草の保存活動(桜草レスキュー隊・通年の世話・桜草を贈る)	大豆	桜草庭園
6年	うき穴住居で * うきうき池の生物 * 残そう浮間の自然	ジャガイモ	うきうき池
4組	うきま里山・季節のふしぎ発見 * 藍を育てて藍染めを	野菜	里山全域

◇生活科、総合的な学習の時間の計画から「うきま里山」での活動を抜粋。

ひろげ深めるコーディネーターの役割

成増小のコーディネーターのカリキュラム開発



ここに紹介しているのは、①全体の流れと内容の一部です。②は、気仙沼市の教員を招いての「特別授業」、③は「事後授業」のテーマです。

企画や指導にあたっては、ESD-Jが発行した「東日本大震災をふりかえり今をみつめ対話する未来をつくるBOOK」が参考にされました。

教育コーディネーターのこれからの役割として重要になってくるのが、地域と学校が一体となったカリキュラム開発でしょう。

板橋区立成増小学校のコーディネーターは、12年の1月から3月にかけて4～6年生を対象に「東日本大震災」についての特別授業を企画し、学校とともに実施しました。

② 気仙沼教育委員会の方(震災当時は小学校教頭)を招いて、2月17日に特別授業を行いました。

- 大地震当日から
- 被災地のくらし
- 支援・ボランティア
- 世界とのつながり

③ その後、その他の分野について理科や社会、総合的な学習の時間で事後授業を行っています。

- 情報とメディア
 - 電話やインターネットのこと
 - TVでの報道
- エネルギーと経済
 - 原子力発電について
 - 再生可能エネルギーって
 - 電気と産業
- 自然と文化
 - 東北地方のこと
 - リアス式海岸とは

地域コーディネーターの七カ条

① コーディネーターの基本スキルを身につけ駆使しているか

- 1) よく聴き、相手の話のポイントを掴む
- 2) 相手の話のポイントに質問してより深くひきだす(ファシリテーション)
- 3) 引き出した相手のやりたい事を、他の人、団体、機関につなぐ

② マッチングではなくエンパワメント(双方の持っている力を引き出し、新しいものをつくり出す)の視点でコーディネートしているか

③ 地域の人々の出番や居場所をコーディネートしているか(人を活かす視点)

④ 学校や親の目の前のニーズだけではなく、子どもと地域社会の未来を考えてコーディネートしているか(「2050年の大人づくり」の視点)

⑤ 地域の持続可能性を明らかにし、その実現につながるような学びをコーディネートしているか(ESDの視点)

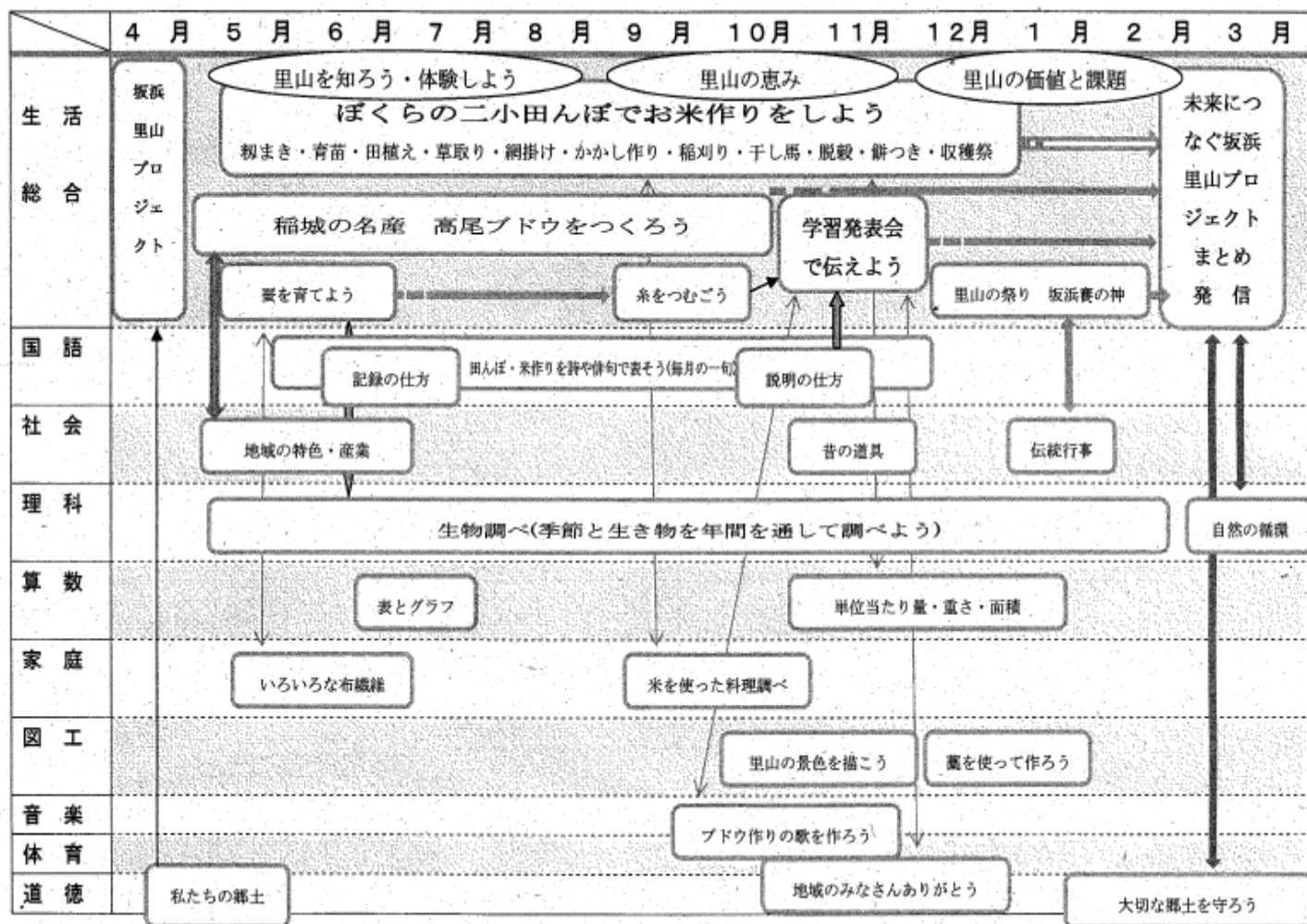
目指したい

⑥ 地域の人や関係者がカリキュラムづくりに参画できるような環境づくりをしているか(教育への市民参加の視点)

⑦ 幼(保)・小・中・高連携の視点でコーディネートしているか(例えば、小中9年間の総合学習のストーリーづくりなど)

地域の人たちと 9年間の地域探究学習のストーリーをつくろう

↓ (1年間の例: 稲城二小24年度ESDカレンダーより) こういうものを9年分関連づけてつくる(概念図⇒表紙参照)



① 小中9年間の地域探究学習のストーリーをつくる(系統的な総合学習)

はじめに地域の人たちもまじえて大きな構想(ねらい、流れ、大切にしたいコンセプト)を練る。大切にしたいコンセプトは、大きな学びの核(魂)となるものを置く。例えば、「命」、「人と自然の循環」、「新旧の融合」など。

次に、＜空間的広がり＞の視点(p.2)を踏まえ、2年目、4年目、6年目、9年目の節目の目標と軸になる活動を設定する。その上で、各学年ごとの教師集団で話しあって上記のようなESDカレンダーをつくり、それを持ち寄って1年ごとのつながり・かかわりや全体の流れを調整し、最後にまた地域の人たちから意見をもらい、地域の人たちの出番も確認する。博物館の学芸員や専門研究機関のスタッフ、関係する行政職員などからもアドバイスをもらう。

② 「いま、ここ」の教科・総合・特活・地域行事・ボランティア活動などの横のつながりを考える (ESDカレンダー)

学校や地域で行なわれている授業、活動、行事は一つひとつはとてもよい内容なのだが、バラバラに行われていることが多いために教育的な効果を高めることができていない。そこで①で検討した9年間のストーリー(学びの軸)に結びつける形で、各中学校区での各時点での(「いま、ここ」での)授業、活動、行事のつながり・かかわりを関連づけていく。

(★ESDカレンダーの作り方の詳細は 江東区立八名川小学校のホームページに「八名川小学校のESDについて」というページがあり、その中に「ESDカレンダー作成の手順」という資料があります。そちらをご覧ください。より詳しいことは同小の手島校長までお尋ね下さい。校長の了解を得てあります)

'12年度の展開 授業実践の公開と交流をひろげる

<目的・内容>

□目的

- ・中学校ブロックごとに、小中連携を視野に入れたESDの推進を行う。
- ・教員同士だけでなく、地域の方々との合同参加による交流をとおして、地域の専門性を学ぶ。
- ・地域のリソースをいかした授業を実践し、地域にねざした教育活動の具体的な在り方を考える。
- ・研修会をとおして学んだことを校内へ還元することにより、各校のESDの推進に役立てる。

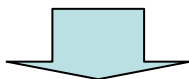
□内容

- ・地域の文化や歴史を学び、地域研究を行う。
- ・授業実践を行う。
- ・人的ネットワークの築き方について講師の先生から講義をいただく。

回	多摩市		稲城市		町田、三鷹、八王子など
	実施日	研修内容	実施日	研修内容	大まかな計画
1	4月17日(火)	・多摩市の文化や歴史について、講師から学ぶ。			町田、三鷹、八王子などの学校・地域で「ユネスコスクールセミナー」を開く
2	5月18日(金)	・多摩市みらい会議 多摩地区のESDを推進する学校からの事例提案を聞く。	5月	(各校ESDカレンダー提出)	
3 4 5	6月～8月	・中学校ブロックごとに教材研究及び公開授業の指導案の作成	6月～12月	・6、9、10、11、12月 公開授業 6つの中学校ブロックの内、5つのブロックで授業実践を行う。	
6 7 8 9	9月～12月	・公開授業(4回) 9つの中学校ブロックの内、4つのブロックで授業実践を行う。		・7、8月 研修 参加型学習のスキルや評価法などについて	
10	2月15日(金)	・多摩市みらい会議 9つの中学校ブロックのそれぞれから成果を発表する。市内の活動団体の取組を知る。	2月	・ESD見本市 全校のESD実践の展示、市民・住民団体、企業、専門機関、大学等のプログラム紹介、交流・交渉	・三多摩ESD実践交流会



'13 ユネスコスクール全国大会(東京)



'14 ユネスコスクール世界大会(岡山)

DESD(持続可能な開発のための教育の10年)最終年総括会合(愛知、岡山を中心に各地)



もっともっと ESD

ESDに取り組む学びのネットワークへ参加しよう

今後、各校で「持続発展教育（ESD）」を普及促進していく上で、文部科学省日本ユネスコ国内委員会により加盟が呼びかけられている「ユネスコスクール」のネットワークを活用することがひとつの有効な手段であると考えられます。

ユネスコスクールの活動目的

- ・ユネスコスクール・ネットワークの活用による世界中の学校との交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと。
- ・地球規模の諸問題に若者が対処できるような、新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこと。

参加している学校

公立私立を問わず、ユネスコの理念に沿った取り組みを継続的に実施している、就学前教育・小学校・中学校・高等学校・技術学校・職業学校、教員養成学校など。

参加校に求められること

- ・法的拘束や義務はありませんが、積極的な活動が求められます。
- ・年に一度、日本ユネスコ国内委員会に報告書の提出が必要です。
- ・ユネスコが提案する教材が送られ、教育現場での実験・評価を依頼されることがあります。
- ・ユネスコから年に数回、世界のユネスコスクールの活動報告が記載されている情報誌が送付されるとともに、ユネスコが行う様々な活動に参加する機会があります。

ユネスコスクールへの加盟のメリット



- ・ユネスコ本部より認定証が送られます。
- ・情報誌が送付され、世界のユネスコスクールの活動報告など、各国の特色ある取り組みを知ることができます。
- ・全世界で約8500校あるユネスコスクールと、交流をする機会が得られます。
- ・その他、活動資金の提供や、教材・情報の提供、ワークショップ・研修会への参加、国内の関係機関との連携、強化などが挙げられます。

問い合わせ先

ユネスコスクール事務局（日本ユネスコ国内委員会事務局・文部科学省国際統括官付）

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

TEL: 03-5253-4111（内線3402） FAX: 03-6734-3679

Email: jpnatcom@mext.go.jp ウェブサイト: <http://www.mext.go.jp/unesco/>



参考教材・資料

【参考教材】

- 「ぐるぐる=ESDって何だろう=」
http://www.unesco-school.jp/?action=common_download_main&upload_id=4917
種類：コミック
作成：渋谷教育学園渋谷中学高等学校教諭 北原りゅうじ
- 「守ろう地球のたからもの ～持続可能な社会を目指して～」
(豊かな自然編、豊かな世界遺産編)
種類：小学校～高等学校用教材
作成：日本ユネスコ協会連盟 協力：三菱UFJフィナンシャル・グループ
- 『ESD教材活用ガイドー持続可能な未来への希望』
http://www.unesco-school.jp/index.php?action=pages_view_main&page_id=91
種類：取組事例集・解説
作成：ユネスコ・アジア文化センター
- 『ひろがり つながる ESD実践事例48』
http://www.unesco-school.jp/?page_id=599
種類：取組事例集
作成：ユネスコ・アジア文化センター
- 「持続可能な社会を担う児童・生徒の育成をめざして」
種類：取組事例集
作成：宮城教育大学、気仙沼市教育委員会、気仙沼市立学校教頭会

【その他参考となるウェブサイト】

- ・ 国立教育政策研究所：<http://www.nier.go.jp/>
- ・ +ESD：<http://www.p-esd.go.jp/top.html>
- ・ 環境省(ESDの10年促進事業)：<http://www.env.go.jp/policy/edu/esd/index.html>
- ・ ESD-J：<http://www.esd-j.org/>
- ・ ジャパンアートマイル：<http://www.artmile.jp/> (絵画を通じての国際交流)
- ・ 日本国際理解教育学会：<http://www.kokusairikai.com/>
- ・ 日本持続発展教育推進フォーラム：<http://www.jp-esd.org/>
- ・ EICネット(環境情報案内・交流サイト)：<http://www.eic.or.jp/>
- ・ JICA地球広場：<http://www.jica.go.jp/hiroba/>
- ・ 立教大学ESD研究センター：
<http://www.rikkyo.ac.jp/research/laboratory/ESD/index2.html>

● お問い合わせ

NPO法人エコ・コミュニケーションセンター（ECOM）

Tel: 03-5957-1301 Fax: 03-5957-1305 E-mail: ngo-ecom@gaea.ocn.ne.jp

発行：2012年3月18日